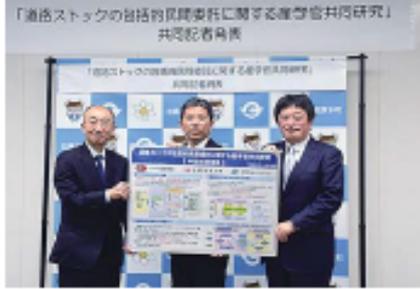


道路橋維持管理

包括的発注で ECI

奈良・田原本町 オリコンサルら 共同研究中間成果



中間成果を発表する（右から）山口教授、森町長、野崎社長＝田原本町役場

奈良県田原本町、大阪市立大学、オリエンタルコンサルタンツは13日、定期点検から補修設計、工事、情報管理まで道路橋の維持管理を包括的に委託する事業モデルの橋梁に向けた共同研究の中間成果を発表した。施工予定者が設計を支援する「ECI方式」を活用し、複数年にわたって一括発注することで設計者の思想を施工に反映し、コスト削減や発注者の負担軽減につなげる。設計時は施工者から技術提案を求めず、一般競争入札で施工予定者を選定する。町では研究成果を踏まえ、2020年度中にガイドラインを策定する予定だ。

3者は協定を結び、橋梁や舗装、道路付属物を対象に効果的で効果的な維持管理に向けた制度設計について検討を進めている。16年度と18年度には国が義務付けた定期点検で対策が必要な健全度Ⅲと判定された3橋を対象に補修設計・工事で同方式を試行し、設計と施工を分離する従来方式に比べて事業期間が8カ月半短縮し、9カ月半で工事が完成した。施工時も設計者がCMR（コンストラクションマネジャー）的に機能することで、施工経験が少ない地域企業も工事品質を確保した。

国土交通省が実施するECI方式は施工者に技術提案を求め、施工者とは二度の契約が必要になるなど双方の負担が多く、同町は市町村でも対応可能な方式を検討。町が試行したECI方式は補修工事の概略設計がまとまった段階で選定する施工予定者には技術提案は求めず、委託後に施工計画に対して技術協力を受ける。発注者と設計者・施工者の三者による協議会も設置し、施工計画などを決める。町では管理する363橋のうち、定期点検で健全度Ⅲと判定された39橋（試行工事除く）を対象に同方式を導入する予定。20年度から3カ年を第1期、23年度から2カ年を第2期としてそれぞれ22橋、17橋で工事を進める。2巡目に入る定期点検も同時に進め、結果によっては長寿命化計画に位置付け、補修の対象に加える。設計業務はプロポーザル方式、工事は一般競争入札でそれぞれ事業者を決める。

3者は引き続き、舗装やカーブミラー、ガードレールなど道路付属物を含めた包括的発注について研究を進め、将来的には橋梁を含めた道路ストック全体の包括的発注に関する制度設計を検討する。

共同研究には山口隆司大阪市立大学院教授が参画し、解決策の妥当性や課題の解決に向けた提案や助言を受けている。

森章浩町長は「予算確保が難しい中でECI方式は短期にでき、地元業者が受注できるのはありがたい。メリットが大きい。橋梁だけでなく、町全体のインフラにも広げられるよう研究を進めたい」と話し、オリエンタルコンサルタンツの野崎秀則社長は「社会に新たな価値を提供し、社会に貢献するため、持てる技術を最大限発揮し、共同研究の成果につなげたい」と意欲を見せた。